

【C部門】

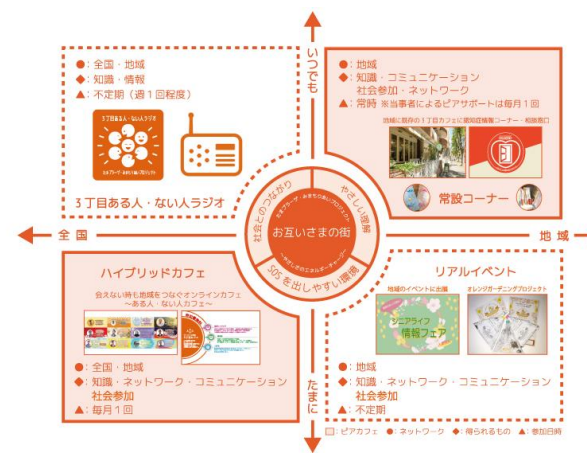
ピアカフェ～いつでも
どこでもだれとでも～

助成団体

たまプラーザ・みまもりあいプロジェクト～やさしさのエネルギーチャージ～



be Orange



活動の様子

| 活動内容

毎月1回のハイブリッドカフェと相談窓口（おれんじドア・たまプラーザ）の開催。認知症関連の書籍や支援グッズを備えたコーナーを常設。

｜ 活動実施による効果

(地域への影響や認知症当事者の方の変化など)

地域にある一般のコミュニティカフェにご協力いただき、そこでハイブリッドカフェの開催や認知症関連の書籍や支援グッズのコーナーを常設し、カフェに訪れる認知症に関心が薄い一般客に間接的に認知症の理解などについてのアピールをした。その結果、地域住民のハイブリッドカフェへの参加やカフェで図書やグッズを手にする姿を見る機会が増え、「認知症に対するイメージが変わった。」、「地域にこんな場所があると安心。」、「ここなら少し肩の力を抜いて来れそう。」といった声や、ハイブリッドカフェの参加者からは、「地域の方だけでなく日本全国からの参加者もいるので、離れて暮らしていると得にくい、親の住む地域の情報も知ることが出来るのが心強い。」という声も聞かせもらえるようになった。

また、相談窓口であるおれんじドア・たまプラーザの方も、コミュニティカフェに訪れた際に私達の取組を知った方やハイブリッドカフェに参加された方が、悩みを抱えている知り合いに紹介をして下さって相談に来られるケースもでてきた。

そして、地域の団体が開催するイベントへの出展依頼、医療機関の後援、近隣の大学の研究室の協力、区内にあるケアプラザの実習生のハイブリッドカフェ参加など、地域の繋がりや輪が広がって、支援者も増えてきていることを実感できた。

一方、おれんじドア・たまプラーザのピアサポーターである認知症当事者の方々は、開設当初、意欲はあるものの口数は少なかったが、回を重ねるごとに口数も増え、「自分達に出来ることはやっていきたい。」と積極的な姿を見せて下さるようになり、支援者で結成したバンドにも、自ら手を挙げて参加をし、彼らの持っている能力を存分に発揮して「楽しい」とイキイキとした笑顔で練習をされている。彼らのご家族も、「本人が活躍できる場を作っていただけて喜んでいきます。」と、時間のある時には練習会場に来て、バンドメンバーの応援をしてくれています。この認知症のあるなしは関係ない、ごちゃ混ぜバンドは、誰かがペースが落ちれば周りがあわせる、失敗したらフォローをするといった、「私達の目指すもの」を現実のものとして見せてくれるので、音楽というツールがなくても、日々の暮らしの中でもこうあるように、これからも地道に活動を続けていくための活力になっている。

この度は、私共の活動に温かいご支援をいただき、誠にありがとうございました。

